

# 初年次教育と専門科目を連携した情報活用教育 オンライン授業と対面授業を組み合わせた授業運営の例：文系（経済学）

名古屋学院大学 経済学部 児島完二

## 【テーマ】新型コロナによるテレワークの普及とネット時代の新しい働き方の提案

### 【授業概要】

日本の労働生産性に注目し、我が国の課題である「働き方改革」にテレワークが寄与できるかを考える。ICTを活用し、これらに関する知識・課題・データを収集し、他者と協働しながら経済学的な視点で議論する。ここで扱うテーマはSDGsの8.1および8.2に関連しており、ブレンド型またはハイフレックス型授業での実施を想定している。ただし、対面授業・フルオンライン授業でも実施可能である。

初回(1コマ目)では過去から現在のテレワークの取り組み状況を検討する。インターネットの登場でSOHOやテレビ会議などへの期待が大きかったが、イノベーションがワークスタイルを変革するには至らなかった。現在、新型コロナの感染対策としてテレワークが注目され、積極的に活用している業務が増えている。通勤時間や出張機会を減らす効果もあり、成功事例や課題を調査し、多面的に検討する。

2コマ目では、少子化と超高齢化に直面する日本で労働者一人当たりの生産性について考察する。そして、テレワークが課題の解決策のひとつとなりうるかを検討する。グループ討議のため、過去から将来にわたる人口動態や労働者人口などの関連データを収集・分析する。また、政府が推進する「働き方改革」の概要を関係機関の資料から理解し、我が国における労働面の課題を明確にする。

3コマ目では、これまで2回で学修した「働き方改革」の流れから今日のテレワークをどのように位置づけるかを考察する。テレワークを推進する上での問題(企業・労働者)を発見し、関連データを活用し、具体的な解決策をグループで議論する。SDGsの課題も意識しながら、経済主体の先進事例が日本で応用できないかを考えながら、テレワークを実際の経済政策からテーマとの関連性を探る。

4コマ目では、グループでの見解をまとめ、履修者全員で共有する。日本においてテレワークは労働生産性の向上をもたらすか、アフターコロナでもテレワークは定着するか、そして今後の働き方はどのようなべきかを考える。

これら一連のプロセスをTeam Based Learningの手法に則して、5名程度のグループを構成して実施する。対象学年は3年生、授業回数は対面授業90分4回を想定している。

### 【授業の到達目標】

- ・ 経済学の知識を活かし、問題発見・解決の枠組みが説明できる。(A1)
- ・ 調査内容に適した情報源として信頼性・正確性・専門性に優れたデータベースを選択し、その基本的な使用方法を理解することができる。(B1)
- ・ イノベーションによる産業やライフスタイルの変化を自らの問題として理解できる。(B3)
- ・ 少子化・超高齢社会の到来を適切なデータを活用して、説明できる。(B1)
- ・ グループでの発表において適切なデータを利用しながら、経済学の知識を活かし、結論に至るまでのストーリーを論理的に組み立てることができる。(A2/B2)
- ・ グループ研究を通じて、解決策の合理性や妥当性を検討できる。(A3)

【学修活動の詳細と対応する到達目標】

	授業内容・学修活動	到達目標
1	<p><b>新型コロナによるテレワークの普及：現状と問題点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- テレワークの現状を調査するために、信頼性・正確性に優れた情報が収集できる</li> <li>- SOHOなど過去の取り組みを調査し、普及しなかった原因が探求できる</li> <li>- 現在のテレワークの査から、メリット成功事例、問題点や課題が指摘できる</li> </ul>	<p>B1 A2 A2</p>
	<p><b>【事前学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 到達目標と課題・タスク（LMS提示）を把握する。</li> <li>- LMSの学習資料を参考に過去からのテレワークの変遷を調査する。</li> <li>- 総務省などのサイトで今日のテレワークの概要を調査し、先進事例を確認する。</li> </ul> <p><b>【授業の流れ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 各自の事前学習到達度の確認，LMSでの確認テスト（iRAT）</li> <li>- グループ決定後，tRATに取り組みながらアイスブレイク。</li> <li>- 各自が事前調査した過去から現在のテレワークをグループ内で説明する</li> <li>- ICTの進展とテレワークの変遷について議論（グループワーク①）</li> <li>- テレワークが導入できる職種とそうでない職種を議論（グループワーク②）</li> <li>- 日本でテレワークが進まない要因をまとめる（グループワーク③）</li> <li>- 議論内容はグループ内の共有スライドに記載し，これらを元にグループワークの成果を発表（3分×グループ数：大人数の場合は録画してLMSにアップロード）</li> </ul> <p><b>【事後学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ピア・レビュー：グループ学修を振り返り，自己とグループメンバーの貢献度を5段階評価でLMSに記載する。</li> <li>- 授業後，一事例でのミニレクチャー動画を視聴し，学修方法を理解する。</li> </ul>	
2	<p><b>労働生産性と「働き方改革」：日本社会の課題と政策プロセス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 労働力人口を調査するために信頼性・正確性・専門性に優れたデータベースの基本的な使用方法を理解できる</li> <li>- グループで議論するための素材として，統計データを適切な表現に加工できる</li> <li>- 我が国の労働問題を理解するため，官公庁のホームページで「働き方改革」政策の概要を調査できる</li> <li>- 労働生産性の向上策を検討し，労働政策との関連性を議論できる</li> </ul>	<p>B1 B2 B1 A2</p>
	<p><b>【事前学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 労働力人口の定義を復習し，労働力人口や人口動態統計などの関連データを収集（官公庁ホームページ）し，適切なグラフ表現にする。</li> <li>- 労働生産性や「働き方改革」の概要を官公庁ホームページと新聞DBで調査して理解する。</li> </ul> <p><b>【授業の流れ】</b></p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 各自の事前学習到達度の確認, LMSでの確認テスト (iRAT)</li> <li>- 各自が事前調査した日本の人口動態 (少子高齢化) をグループ内で説明する.</li> <li>- 将来の日本における労働力人口と生産性の課題を議論 (グループワーク①)</li> <li>- 各自が事前調査した「働き方改革」の概要をグループ内で説明する.</li> <li>- 我が国における生産現場の問題点について議論 (グループワーク②)</li> <li>- グループの意見をまとめ, 発表する (3分×グループ数)</li> </ul> <p><b>【事後学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ピア・レビュー: グループ学修を振り返り, 自己とグループメンバーの貢献度を5段階評価でLMSに記載する.</li> <li>- 授業後, 関連のミニレクチャー動画を視聴し, 学修方法を理解する. 動画内容: 「人口減少社会と経済成長」 「生産性と労働力: 生産関数」</li> </ul>	
3	<p><b>「働き方改革」とテレワーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 「働き方改革」の流れから今日のテレワークをどのように位置づけるかを考察できる</li> <li>- テレワークを推進する上での問題 (企業・労働者) を発見し, 関連データを活用しながら解決策を思考することができる</li> <li>- 自治体や政府が進めるテレワークへの具体的な政策を調査できる</li> </ul>	<p>A3</p> <p>C2-1</p> <p>A2</p>
	<p><b>【事前学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- テレワークを推進している実例を調査し, 企業側と労働者側それぞれから見たメリットや課題を調査する.</li> <li>- 自治体や政府が推進するテレワークの具体的な経済政策 (法政策・補助金など) について調査する.</li> <li>- SDGsについて調査し, テレワークがもたらす効果を考察する.</li> </ul> <p><b>【授業の流れ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 各自の事前学習到達度の確認, LMSでの確認テスト (iRAT)</li> <li>- 各自が事前調査したテレワークの課題 (企業・労働者) をグループ内で説明.</li> <li>- 問題発見として企業側と労働者側から見た課題を議論 (グループワーク①)</li> <li>- 各自が事前調査した自治体や政府のテレワークを推進する経済政策についてグループ内で説明する.</li> <li>- 現状の課題を解決するための具体的な政策を議論 (グループワーク②)</li> <li>- 各自が事前調査したSDGsとテーマとの関連をグループ内で説明する.</li> <li>- テレワークとSDGsの関連項目について精査 (グループワーク③)</li> <li>- グループの意見をまとめ, 発表する (3分×グループ数)</li> </ul> <p><b>【事後学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ピア・レビュー: グループ学修を振り返り, 自己とグループメンバーの貢献度を5段階評価でLMSに記載する.</li> </ul>	

4	<p><b>ネット時代における新しい働き方の提案</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 日本においてテレワークは労働生産性の向上をもたらすかを検討できる</li> <li>- アフターコロナでもテレワークは定着するかを予測できる</li> <li>- アフターコロナ時代の新しい働き方を提案できる</li> </ul>	<p>A3 A3 A3</p>
	<p><b>【事前学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- グループで結論（予測）をまとめ、プレゼンソフトでスライドを作成する。</li> <li>- 効果的なスライド編集とビデオ作成に関する説明動画を視聴する。</li> <li>- プレゼンソフトから発表ビデオ（5分以内）にして、LMSへアップロード。</li> <li>- 全グループのビデオを視聴（5分×グループ数）とLMSでビデオ評価表の提出。</li> </ul> <p><b>【授業の流れ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 全グループの発表について改善点や質問などを意見交換（グループワーク）</li> <li>- グループワークの結果（評価・改善点・質問）を報告、最優秀発表を決定。</li> <li>- メモを取りながら、最も優れたビデオを全員で視聴（5分）</li> <li>- LMSに記載した質問や改善コメントなどを確認、リプライ（全体ワーク）</li> <li>- 教員が発表全体をまとめ、再検討（経済学の枠組みから提案の妥当性を確認）に必要なコメントを与える。</li> <li>- 4回のまとめと事後学修の説明（ルーブリック・課題レポート）</li> </ul> <p><b>【事後学修】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- ピア・レビュー：グループ学修を振り返り、自己とグループメンバーの貢献度を5段階評価でLMSに記載する。</li> <li>- 各自が振り返りシート（ルーブリック）をLMSへ提出する。</li> <li>- 今回のテーマに関するレポートをLMSから提出する。</li> </ul>	

### 【評価】

本科目は、①期末試験60点、②課題調査・グループ発表40点の内訳で採点し、合計点60点以上を合格とする。

上記4週分の課題実習に関する成果は、②の40点分として扱う。

②の採点はピアレビュー・ルーブリック・提出レポートに基づいて行い、問題発見力・構想力、情報収集力、情報技術応用力、グループワーク力を中心に評価する。